

日本あちこち河川遡行記（第266回）

奈良 1-3-1. 秋篠川 中盤（薬師寺） 令和1年5月24日（金）快晴

〔続き〕

欄干に擬宝珠が載った「城戸橋」を見て次の「下堂橋」で川を離れ世界遺産の「薬師寺」に向かう。ここ西ノ京には世界遺産で国宝がてんこ盛りの寺が二つも有るので橋の調査はわき役となる。広い伽藍の南端にある南門から中に入る。薬師寺様式の伽藍の配置は独特で対峙する東西の塔のうちの東塔は解体修理の真っ最中で、シートに覆われている。



15.薬師寺に立ち寄る



16.西塔に対峙する東塔は解体修理中

入山料は1,100円也。高齢者割引はありません。伽藍は南側の「白鳳伽藍」と北側の「玄奘三蔵院伽藍」に分かれており、まずは主役の白鳳伽藍を巡る。南門に続く「中門」の両側には彩色が残る阿吽像が出迎えてくれる。東洋のヘラクレスでんな。



17.薬師寺の伽藍は広いぞが



18.中門の右に構える「阿像」は彩色

残っている

門から青空に浮かぶ彩色の復元された「金堂」は素晴らしい！古寺の鄙びた建物も良いが創建時を想像させる彩色されたお堂は素晴らしい。限定された色だけの安定感がある。消失して無かった金堂、西塔、そして大講堂と全て当時の高田好胤管主（かんず）の努力とたぐいまれな言動で復興された。お経を唱えてだけでは叶わなかった伽藍である。中学校の美術の授業で学んだ東塔は見られないが、薬師三尊像は見る事が出来るぞ。

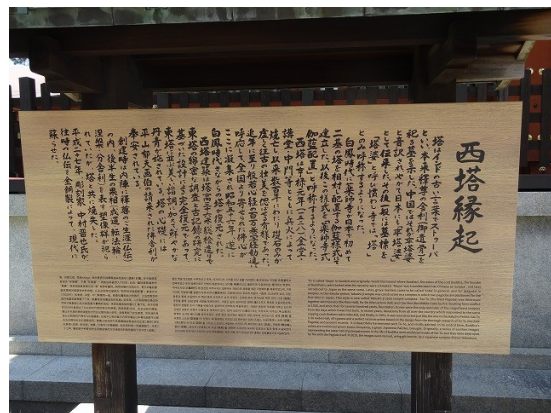


19.中門から見た金堂は素晴らしい

金堂に向かって左側には裳裾を持った三重塔が聳え、その前には縁起の解説板が有る。塔の裏側には塔を読んだ句碑も有る。塔は下から上に向かって大きさを変え、実際以上に高く見えるようだ。遠近法が大昔から考えられていたのだろう。



20.裳裾が際立つ再建された西塔



21.塔の前には縁起が



22.西塔の奥には塔を詠んだ句碑が

西塔の前から金堂に向かうと奥には大講堂が見える。中門、金堂、大講堂が南北に一直線に並び、中門と金堂の間の左右に東西の塔が配置された薬師寺形式の伽藍である。



23.金堂の奥にはこれも再建された大講堂が

金堂の扉は大きく開かれ上から垂れ下がった暖簾？が風に緩やかに動いている。中央の国宝「薬師如来像」が見える。金堂の前にも縁起が語られている。ご本尊の両脇の脇侍はこれも国宝の右に「日光菩薩」、左に「月光菩薩」の両菩薩が並んでいる。金堂の中での写真撮影はNGなので外から尊顔をズームアップしてカシャ。



24.ご本尊の国宝、薬師如来像



25.金堂の前にも縁起が



26.薬師如来の左右には日光、月光菩薩像が

中でじっくりとそのお姿を見上げ、最高の仏像に出会った気がする。世界の宗教の中には偶像崇拝を忌み嫌うのが多く有るが、一度この仏像を虚心坦懐の心を持ったうえで見てほしい。



27.お薬師さんに健康祈願を

続いて大講堂に向かう。こちらにも再建された大きな建物で間口が広い。中には重文の「弥勒三尊像」が安置され外からは拝観できない。



28.大講堂は間口が広いな



29.大講堂にも縁起が

大講堂の右側の「東僧坊」から大きな声で修学旅行でやって来た中学生に僧侶が法話をしている。子供には分かりやすく、かつ興味を持たせるために吉本もびっくりのお笑いを交えて話しをしている。いつでも難波花月に立てまっせ！これも高田管主の伝統だなー。外で待っているバスガイドに聞くと山口県の中学生とのことである。もう難波に行かんでもええよ。



30.中学生への法話は漫談調で吉本も負けるワ

ついでに椅子に座ってコンビニお握りを法話を聞きながら食す。

次の「玄奘三蔵院伽藍」に向かう。両伽藍の間に県道が横切る面白い配置である。北に向かう石畳を進み「礼門」の西側の入り口から中に入る。門から中を見ると「玄奘塔」の一部が見える。正面の額には「不東」と書かれている。はてな？不東とは。その答えは、三蔵法師が天竺の経典を探す旅立ちの時に見つけるまでは東の唐には帰らないとの意思を示している。



31.玄奘三蔵院伽藍の礼門



32.門の奥に玄奘塔が見える



33.入り口には「不東」の額が、その意味は

塔の北側の回廊の一部には「平山郁夫」画伯が描いた「玄奘三蔵」の足跡を追った見事な有名な壁画が並んでいる。しまなみ海道の「生口島」出身の画伯のお兄さんは瀬戸田町の記念館の館長をされていた。当時の町長に紹介してもらったのは25年も前のことである。県道まで戻り遡行をなんとなく再開する。

[続く]